

(5) レクリエーション指導の記録と分析のためのワークシートの開発

宇田川 光 雄

(日本レクリエーション協会)

はじめに

レク指導とは何か、その体系化の過程にある中で、レク指導の記録のワークシートの開発を考えても、『何を』の部分がない形であり、無意味だと考える方もおられるかもしれない。しかし、現実には、レク指導という言葉は使われ、ゲームやうた・おどり等を伝達して、2時間程度の『つどい』と称する集会を展開している。これらの集会でレクリエーションを可能にする財の伝達者達は、『今日は、よい指導が出来た』『失敗したな、あの灯を消すタイミング』等と集会の評価をしている。また、大先輩などが総括などと称してスタッフを集め、評価をし『大分上手になったね』などとやっている。現に行なわれるこの行為を丹念に記録し、何等かの形で客観的に分析していくことを試みる必要がある。なぜならば、多くの実践の中から一定の記録表で、一定の方法で分析していくことから一般的・普遍的法則性をさぐりだすことに繋がるからに他ならない。

1. 本研究のねらいと価値

レク指導の記録・分析をレク指導者は『指導分析』と呼んでいる。指導分析とは、目標をどのように達成していったかの筋道の記録を基に、より効果的に展開するにはどのようにしたらよいかを、個人および共同して研究するためのものである。本研究はその学習シートの開発に主眼をおく。また上記のねらいを達成するために、指導者のための計画(指導案)に指導者の意図が明瞭に示され、そして、その指導案をもとに実際に展開された事実を克明に記録し、分析に役立つように仕立てた構成にしなければならないと考える。このことにより、指導における伝達技術や対応力等の自己分析を可能にする。また、多くのデータからフォームを読み取ることができる。

2. 本研究のシート開発の着眼点

(1) 時間軸を基本にした構成

記録を客観化するためには、記録者により異なる考え方が生じるものを基本に据える訳にはいかない。そこで考えられるのは時間経過である。この時間軸を基本にし、そこで行われた行為を記述し、その内容を一定

のワクのなかに納めることを試みたい。

これによりことばかけの頻度数等が数量化されることになり、科学化への一步を踏み出すことになる。

(2) 客観と主観が区別される構成

記録・分析から考えると客観的データの蓄積こそ意味をもつものであるが、体操競技の採点例から客観だけで評価されていないことをとらえてみたい。勿論採点であるから足が開いたとか、着地が乱れたとかで減点し、評点ができる訳だが、そこに表情などという体操技術とは別のものが左右する。同じ演技をしてもアピールする態度がないと高得点に繋がらないなどの現実がある。客観的であるべき採点に於てもこのような状況はある。よって遊びの指導という行為のなかでは対象が人間であり、やりとりのなかに客観的に姿をとらえることができないことも多い。観察者の主観的記録も思わぬところで生きてくる可能性がある。可能性があるといっても主観と客観が入り混じったのではデータとなり得ない。よって主観と客観が明瞭に区別されることを試みたい。

(3) シートには3場面の記入がなされる。

記録は分析し、自己向上に繋がるなくては何の為に記録したのか分らない。よって計画と実践記録と分析の3場面が1枚のシートに表われているものでなければ役に立たない。この3場面を一度に読み取れるよう試みたい。

レク指導の記録分析表 その1

別添記録分析表その1は指導の全体像を確認するためのシートにもなるように構成したものである。

記入例を参考にしてその主旨と活用法を理解していただきたい。

レク指導の記録分析表 その2

この記録表はことばかけに中心をおいたものである。ことばをすべて記録することに重きをおいて、10秒枠にて『ことばかけ』を時間経過の中で記入するように作成したものである。

記入例を参考にしてこの記録表の意味を理解してほしい。

つどいのレク指導「記録・分析表」 その1

計画種目	だるまん	※財選択と時間的整序を事前にする。				
時間経過		※1頁5分間で2枚目から()内にトータルをしめす。)				
実際指導種目		※実際の指導種目(計画とのズレをみる)				
指導者のことばかけ	ことばの選択	<p>ハイありがとうございます。では最後にだるまんヨイシヨイシをやりませう。じゃあ、本当に最後ですよ、だるまんヨイシヨイシ、三回いませう。だるまんヨイシヨイシ、以上です。だるまんのゲームを終ります。</p> <p>ちよっと遅いですよ。○さんじゃだるまんしゃがんで、ハイ立って自分の見えない後でやっている……だんだんひっからなくなりまして、じゃあ立ちましよう、ここまでくるとひっかかりませぬ。だるまん立って下さい。だんだんきつくなってきますからね。むずかしいやつも練習にやってみて下さい。だるまん○○○○として下さい。</p> <p>レク・リーダー養成ギブスをつけた○です。これからタルマサンゲームを行います。ゲーム説明からいきます。私が皆さんにある動作をして下さいと言います。その命令のあたにだるまんがついた時だけ動作して下さい。つかない時はその動作はしません。たとえ皆さん右手をあげて下さい。あげちゃいけないんです。本書いきます。非常にすなおな人がいます。</p>	<p>※事前にこのようなことばかけをしようとして記入する。</p> <p>※実際に言ったことばとチェックをしていき、よく感じたところに○印を朱書する。</p> <p>※どうもおかしいなと思ったら「？」を朱書し、なにかおかしいのか解ったら項目欄と対応させておくとよい。</p> <p>※ことばかけは1分枠の中に横書きとすると使いやすい。また、少々変だが縦書きで左から右へと流すと分析上は利用しやすい。</p>			
	言いまわし		<p>非言語伝達</p> <p>表情 身体操作 例示的動作 情動表出 規則的動作</p> <p>あいさつ行動</p> <p>自分もあげる</p>	<p>※事前にどのように動作しようかの考えを記入</p> <p>※実際とどうかを○印でチェックする。</p>		
	テンポ			<p>指導者の動き</p> <p>隊形と立つ位置</p> <p>指導者の動き</p>	<p>※隊形と立つ位置をしめし、指導者は、どのような方向に動いているかを記入。</p>	
	アクセント・ストレンギス				<p>目的への接近(ねらいの達成(参加者の反応))</p> <p>アイツツ・關心</p> <p>見る・見合う</p> <p>距離・さわる</p> <p>運導・同一行動</p> <p>相手への積極的關心</p> <p>話し合う</p> <p>開放・積極性</p> <p>受容・承認</p> <p>イニシアティブ・監督</p> <p>討論・建設的</p> <p>精神的充足感</p> <p>役割達成意識</p> <p>自己表現</p>	<p>※事前にレ印でそれぞれのねらいを確認しておく。</p> <p>※レ印のねらいが達成されたとき○印でチェックする。</p> <p>※目標項目は右下へ流れるようにチェックされていくように構成をした。</p>
	インターバル					<p>参加者の反応</p> <p>ことばかけに反応</p> <p>質問等の自由反応</p> <p>練習・放言</p> <p>笑い</p> <p>リラククス</p> <p>動作</p> <p>拍手</p> <p>移動</p>
イントネーション	<p>観印者象</p> <p>ことばかけ</p> <p>動作・表情</p> <p>隊形・距離</p> <p>対応力</p>	<p>※観察者が気づいたことを記入する欄</p>				
フィードバック	<p>数量化</p> <p>グラフ</p> <p>頻度数</p> <p>構成</p> <p>個々の展開</p> <p>全体の構成</p> <p>研究課題</p> <p>テーマ</p> <p>解決のための処方</p>	<p>※ひとつの財の起承転結は斜線をひいて記入し、全体の中の起承転結はワクを太くする。</p> <p>※記述・朱書でチェックされたところをもとに話し合い、解決していく。</p>				

対象者について

年齢	性別	構成	経験度	その他
	男・女			

つどいのレク指導「記録・分析表」 その2

計画 種目	時間 経過	実 際 指 導 種 目	指 導 者 の こ と ば か け				非言語伝達 表身 例示 体的 操 象	言語伝達 情動的 規 則 的 動 作 作	目的への接近・ねらいの達成 挨拶・見 る・聞 か れ る 心	参加者の反応 なげかけに呼 応 自 己 承 認 現	観察者の印象 動作・表 情・距 離・力	
			こ と ば の 選 択	言 い ま わ し	テ ン ポ	ア ク セ ン ト ・ ス ト レ ン グ ス						イ ン タ ー バ ル
だるまさん		だるまさん	レク・リーダー養成ギブスをつけた3班の〇〇です。 これから始めます。では皆さんお立ち下さい。これからダルマさんというゲームを行います。これは別に〇〇さん でも〇〇さんでもいいのですけれども ゲームの説明からいきます。私が皆さんにある動作をして下さいと言います。その命令のあたにだるまさん ということばがついた時だけ動作をして下さい。 だるまさんということばがつかない時はその動作をしてはいけません。									
			いいですか、たとえば、たとえばです。 皆さん手をあげて下さい。 あげちゃいけないんですね。 あげちゃいけないんですね、だるまさんがついていませんから、いきます。では本番いきます。 だるまさん右手をあげて下さい。ハイおろして 非常に言葉にすなおな人がいます。じゃあ、だるまさん右手おろして下さい。 いいですね、ちょっと									
			遅い人いますけど 〇〇さん じゃあ、だるまさん シャがんでください ハイ立って 自分の見えない後の方でやっている人がいますけど だるまさん両手をあげて下さい。じゃあおろして									
			だんだんひっかからなくなってきました。じゃあだるまさん 左手おろして下さい、ハイ右手もおろして、若干2名くらい いますね、だるまさん右手をおろして下さい。 じゃか立ちましょう。ここまでくるとあんまりひっかかる人が いなくなりますね。じゃあ、立ってください。ひっかかりませんね、 あぶないですね。 だるまさん立って下さい。 これからだんだんきつくなってきますからね。 むずかしいやつもすなおにやして下さい。 だるまさん〇〇〇〇〇〇して下さい。									
			ハイ、ありがとうございます。では最後にだるまさんヨイショを3回 やります。									
			そんきょして 構えて 構えちゃいけないんですね。									
			じゃあ本当に最後のしめくくりいきます。 だるまさんヨイショ3回いきます。 だるまさん構えて、だるまさん ソレ ヨイショ ホイ ヨイショ ハイ ヨイショ 以上でだるまさんのゲームを終わります。									

レク指導の記録分析表 その3

この記録表は時間と指導内容の項目との対比でとらえることに重点をおいたものである。この表から確認できることは、どのくらい、何に費やしたかが分析できる。この表はレク指導の記録分析表その2との関連をもって構成されている。その2の10秒ずつのことはかけがいの内容かをこの表に時間経過と共に記入していく。このことから指導の軌跡を視覚的に見ることができ、比較が可能になる。

記入例を参考にしてこの記録表の意味を理解してほしい。

診断表への利用

診断表への利用法についてもいくつかの記号を用いることで可能になる。

表4をもとにレク指導記録分析表その3の枠塗りを工夫することで可能になる。表4の優・良・可・の3段階を、黒ぬり、実践、破線、の3段階に対応させて

記入するとその軌跡が診断になっている。その処方を考えると、濃く見えるところは問題がなく、薄くしめられているところは課題があると読み取れる。

まとめ

レク指導の記録と分析の為のワークシートについて各項目を誌面の都合で詳しく記述することができず、分りにくいところもあると思うが記入例からそれぞれの項目がどのような意味をもっているのか理解してほしい。シートの記入法を検討することで記録しながら指導の行為を診断していくことが可能になり、指導技術の向上につながることを期待したい。

診断については多くのデータから検討をしていきたいと考えている。

